

SDGsに関する調査データ

～共感・意識・取り組み 編～

2022年5月

朝日大学マーケティング研究所

- 調査手法 : WEBリサーチ
- 調査期間 : 2022年 4月8日 (金) ~ 4月15日 (金)
- 調査対象 : 首都圏在住の男女 20歳~69歳
- 有効回答 : 400名

【内訳】

	男性	女性
20~29歳	40名	40名
30~39歳	40名	40名
40~49歳	40名	40名
50~59歳	40名	40名
60~69歳	40名	40名
合計	200名	200名

- 「とても共感できる」「まあ共感できる」の合計が最も高いゴールは「飢餓をゼロに」（87.0%）だが「貧困をなくそう」（85.5%）、「すべての人に健康と福祉を」（84.8%）など2番目以下も大差はない。17ゴールのうち11ゴールで8割以上。
- 「パートナーシップで目標を達成しよう」（65.3%）が唯一の6割台で最も低い。
- 僅差だが、ほとんどのゴールで男性より女性のほうが高い。

Q.SDGsの17の具体的なゴール（目標）について、あなたは共感をお持ちになりますか。（各SA）

各ゴールに対して5段階評価で質問、グラフは全体の「とても共感できる」「まあ共感できる」で作成

■「とても共感できる」「まあ共感できる」の合計

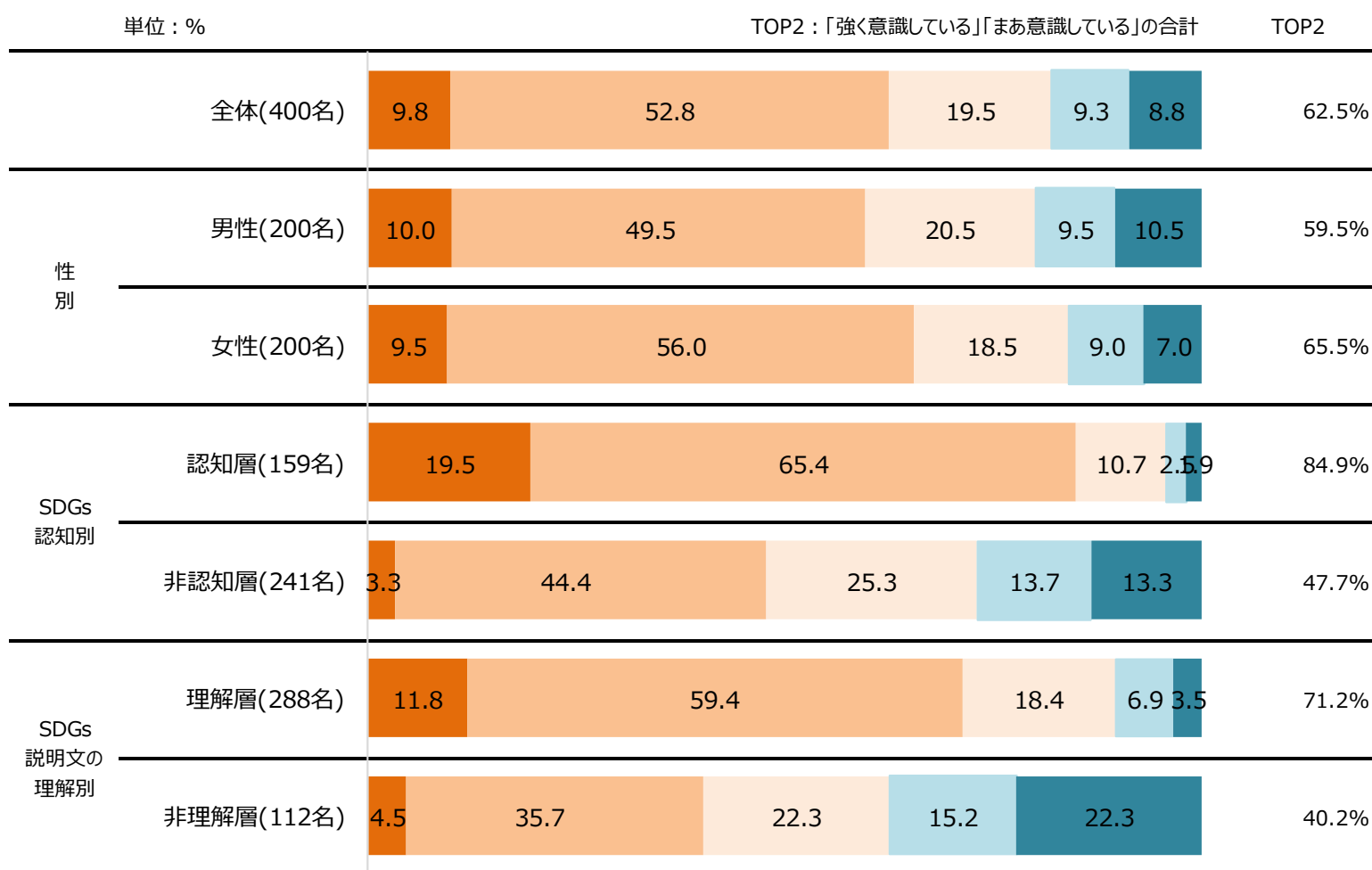
単位：%

	■「とても共感できる」「まあ共感できる」の合計		全体 (400名)	男性 (200名)	女性 (200名)
飢餓をゼロに	34.8	52.3	87.0	85.0	89.0
貧困をなくそう	33.8	51.8	85.5	84.5	86.5
すべての人に健康と福祉を	36.0	48.8	84.8	84.0	85.5
安全な水とトイレを世界中に	37.3	46.0	83.3	79.5	87.0
海の豊かさを守ろう	38.5	44.5	83.0	82.0	84.0
質の高い教育をみんなに	28.5	54.3	82.8	83.5	82.0
陸の豊かさを守ろう	36.5	45.5	82.0	79.0	85.0
平和と公正をすべての人に	37.3	44.5	81.8	80.5	83.0
気候変動に具体的な対策を	37.8	43.0	80.8	78.5	83.0
住み続けられるまちづくりを	29.8	50.8	80.5	77.5	83.5
人や国の不平等をなくそう	30.0	50.3	80.3	78.5	82.0
エネルギーをみんなに そしてクリーンに	27.8	52.0	79.8	76.5	83.0
つくる責任 つかう責任	28.3	49.5	77.8	74.5	81.0
働きがいも経済成長も	24.5	52.8	77.3	75.5	79.0
産業と技術革新の基盤をつくろう	21.8	51.3	73.0	73.0	73.0
ジェンダー平等を実現しよう	21.3	49.5	70.8	66.5	75.0
パートナーシップで目標を達成しよう	18.8	46.5	65.3	61.0	69.5

■とても共感できる
■まあ共感できる

- 「強く意識している」「まあ意識している」の合計は62.5%。
- 性別で見ると、女性（65.5%）が男性（59.5%）が6ポイント上回っている。
- SDGs認知別、SDGs説明文の理解別で見ると、関与が強い層（認知層 84.9%、理解層 71.2%）は弱い層（非認知層 47.7%、非理解層 40.2%）に比べてかなり高い。

Q.SDGsの目標達成に向けた取り組みについて、日頃からどのような意識をお持ちですか。(SA)



■ 強く意識している
 ■ まあ意識している
 ■ どちらともいえない
 ■ あまり意識していない
 ■ まったく意識していない

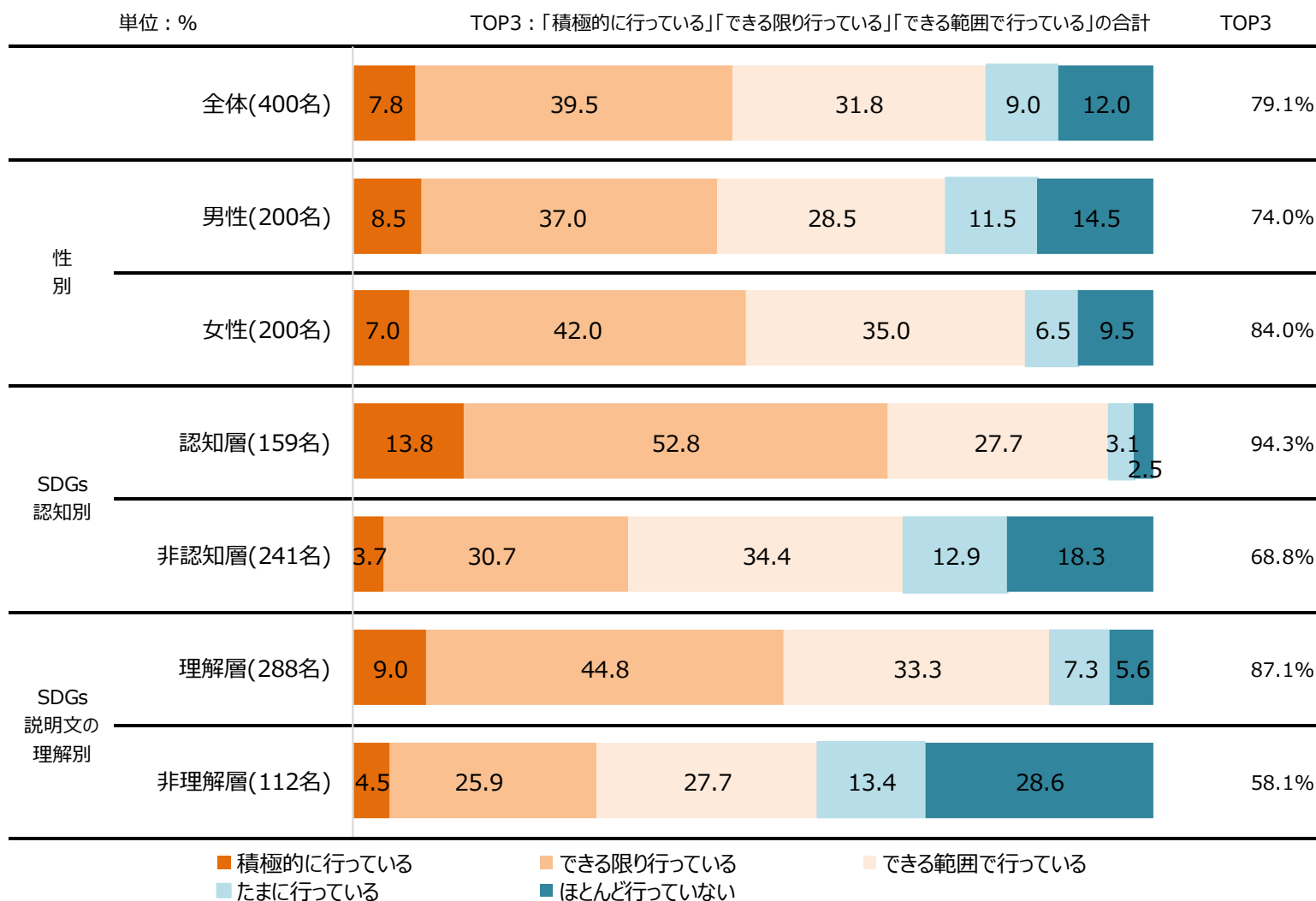
※SDGs認知別 ■ 認知層：深く理解している、だいたい知っている ■ 非認知層：知らない、わからないが文字は見たことがある、何となく知っている

※SDGs説明文の理解別 ■ 理解層：よく理解できた、まあ理解できた ■ 非認知層：まったく理解できなかった、あまり理解できなかった

詳しくは「認知・理解・関心 編」をご参照

- SDGsのゴール達成に向けた取り組みについて、「積極的にやっている」(7.8%)は1割未満。「できる限りやっている」(39.5%)、「できる範囲で行っている」(31.8%)を含めたTOP3は約8割のレベル。
- TOP3は、SDGsのゴール達成に向けた取り組みの意識(前頁62.5%)よりも高い。
- TOP3はSDGs認知別の非認知層(68.8%)、SDGs説明文の理解別の非理解層(58.1%)でも半数以上だが、認知層(94.3%)、理解層(87.1%)は更に高い。SDGsの社会的関与を高める効果は大きい。

Q.SDGsの目標達成に向けた取り組みを、日頃から行っていますか。(SA)



※SDGs認知別 ■ 認知層：深く理解している、だいたい知っている ■ 非認知層：知らない、わからないが文字は見たことがある、何となく知っている

※SDGs説明文の理解別 ■ 理解層：よく理解できた、まあ理解できた ■ 非認知層：まったく理解できなかった、あまり理解できなかった

詳しくは「認知・理解・関心 編」をご参照

- SDGsのゴール達成に向けて具体的に行っている取り組みでは、「電気をこまめに消す」(77.3%) がトップ、「水道の蛇口をこまめに止める」(69.3%)、「マイバッグ、マイボトルを持ち歩く」(68.2%)、「エアコンの設定温度を気にかける」(66.2%)、「食品ロスを減らす、なくす」(65.3%) が6割台で続く。
- 2つの行動（家事を平等に分担する、街の清掃・防災活動などに参加する）を除くすべての行動で男性より女性の割合が高い。男女差が1割以上の取り組みは、上位に多くみられる。

Q.あなたが日頃から行っているSDGsの目標達成に向けた取り組みをすべて選んでください。(MA)

N=SDGsの目標達成に向けた何らかの取り組みを日頃から行っている人

単位：%

		男性 (171名)	女性 (181名)
電気をこまめに消す	77.3	74.3	80.1
水道の蛇口をこまめに止める	69.3	63.7	74.6
マイバッグ、マイボトルを持ち歩く	68.2	58.5	77.3
エアコンの設定温度を気にかける	66.2	60.2	71.8
食品ロスを減らす、なくす	65.3	59.1	71.3
レジ袋やプラスチック製品をなるべく使わない	58.2	48.5	67.4
油を流しに流さないでふき取る	46.3	33.9	58.0
海、川、山に行ったらゴミは持ち帰る	45.2	41.5	48.6
できるだけ公共交通機関を利用する	42.6	37.4	47.5
いじめや差別をしない、させない	41.2	32.7	49.2
紙を無駄遣いしない、ペーパーレス化を推進する	38.9	34.5	43.1
徒歩や自転車で通勤・通学する	38.9	35.7	42.0
困っている人を見かけたら手伝いや援助をする	38.4	32.7	43.6
リユース、リサイクル、リデュースを推進する	33.2	26.9	39.2
風呂水を散水や洗濯に再利用する	31.0	25.7	35.9
使い捨て製品をなるべく使わない	27.8	25.1	30.4
家具の転倒防止や防災グッズを用意する	26.4	19.9	32.6
CO2 排出の少ない交通手段を使う	21.3	17.5	24.9
地域で生産したものを地元で買う	19.6	17.0	22.1
毛皮や牙などを使った製品を買わない	19.6	14.0	24.9
家事を平等に分担する	18.2	20.5	16.0
残業をしない、休暇をきちんと取る	15.3	15.2	15.5
環境に配慮した認証マーク入りの製品を買う	14.2	9.9	18.2
フェアトレード製品を買う	11.6	9.9	13.3
オーガニック食材を育てる、買う	11.6	7.6	15.5
持続可能エネルギーを使う	10.8	10.5	11.0
街の清掃・防災活動などに参加する	10.2	11.1	9.4
SNS でSDGsに関わる情報を拡散する	6.5	7.0	6.1

※ハッチングは男女で10%以上の差がある場合の低いほう

● 11ゴールに対しては8割以上の共感

「とても共感できる」「まあ共感できる」の合計割合は、17ゴールのうち11ゴールで8割を超えている。「飢餓をゼロに」（87.0%）が最も高く、「貧困をなくそう」（85.5%）とともに生活レベルの向上を目指すゴールが最上位に並んだ。

一方、最下位は「パートナーシップで目標を達成しよう」（65.3%）で、「ジェンダー平等を実現しよう」（70.8%）が次に低い。最下位に並んだのは人間関係に関わるゴール。

男性より女性の取り組みの割合が高いゴールが17のうち15を占めており、男性のほうが高いゴールは「質の高い教育をみんなに」のみ（残り1つは男女同率）。女性は男性に比べて、SDGsのゴールに対して強く共感している。最も男女差が大きいのは、最下位に並んだ人間関係に関わる2つのゴール。男性は、パートナーシップやジェンダー平等をキーワードとしたゴールへの共感が相対的に弱い。

● 普段の意識に関わらず、ゴール達成への取り組みは盛んに行われている

普段からSDGsの目標達成に向けた取り組みに対して意識がある（強く意識している、まあ意識している）のは62.5%であり、日頃から行っている（積極的に行っている、できる限り行っている、できる範囲で行っている）のは79.1%である。意識＜行動の状況であり、SDGsに対する意識がある人だけでなく、無意識のうちに取り組んでいる人もいる。

SDGsの目標達成に向けた取り組みを日頃から行っている割合は、SDGsへの関与が弱い層（非認知層68.8%、非理解層58.1%）でも半数以上だが、関与が強い層（認知層94.3%、理解層87.1%）では約9割のレベルに達する。社会的な関与が高まると、取り組む人も着実に増えて、企業が環境や自然、生活を大切にしながら活動するためのモチベーションにもなる。SDGsの認知や理解を深めることの意義は大きい。

● ゴール達成に向けた具体的な取り組みは男性より女性が先行

最もよく行われている具体的な取り組みは「電気をこまめに消す」であり、他に「水道の蛇口をこまめに止める」「マイバッグ、マイボトルを持ち歩く」「エアコンの設定温度を気にかける」「食品ロスを減らす、なくす」もよく行われている。日常生活で簡単にできる身近な行動が上位に並んだ。

家庭的な取り組みが中心ということもあって、ほとんどの取り組みの実施率は男性より女性のほうが高い。現在の具体的な取り組みは男性より女性のほうが盛んであり、SDGsの認知や理解が女性より男性が先行している現状（認知・理解・関心編をご参照）とは対照的。

SDGsに関しては、女性向けには認知や理解の向上、男性向けには具体的な取り組みの実施率の向上が望まれる。

トピックスリサーチ

SDGsに関する調査データ ～共感・意識・取り組み 編～

発行日 2022年 5月 31日

発行・調査分析 朝日大学 マーケティング研究所

〒501-0296

岐阜県瑞穂市穂積1851

TEL : 058-326-1173

お問い合わせ marketing@alice.asahi-u.ac.jp